

# 県央地区青少年のつどい大会

## I'MUSEUM ～歴史の冒険へ!～

10月29日(日)に市原歴史博物館 (I'Museum) において、相談員51人協力のもと、千葉市及び市原市の相談員で構成される県央地区青少年相談員連絡協議会が主催する「県央地区青少年のつどい大会」が市原市主催で開催されました。

I'Museumは、市全体を歴史のミュージアムとして捉え、市民と一緒に、貴重な歴史遺産を未来へつないでいくプロジェクトであり、市原歴史博物館はその中心拠点となる場所です。

当日は千葉市・市原市の子ども達総勢71人が参加し、3つのグループに分かれ、展示見学と体験学習をローテーションしながら回りました。

体験学習のメニューは「泥めんこづくり体験」と「弓切り・火打石を使った火起こし体験」の2種類!

泥めんこづくりでは、自分で好きな絵柄の型を選び、粉を振りかけ、粘土を詰めて、型からはみ出た不要な粘土を削り取る作業を経て泥めんこを作っていました。説明を聞いていると時は簡単だと思っていた作業でしたが、これがなかなかコツがある! 数を沢山作る子もいれば、一つひとつ丁寧に作る子もいましたが、みんなとても上手にできていたと思います。

火起こし体験では弓切りを使って、参加者3人の力を合わせて火種を作りましたが、小さな火種を作るのがとても難しく、最終的に火を起こすことができるまで時間がかかりました。火を作り出すことの大変さを痛感するとともに、昔の人の苦労と知恵を実感できたのではないのでしょうか。

普段は出会うことのない千葉市と市原市の子ども達と一緒に楽しみながら体験し、学ぶことができるこの機会はとても貴重なものだと今回のつどい大会を通して感じました。我々も次年度の千葉市開催に向けて鋭意準備を進めていきましょう!



### 市相談員課題研修会

1月28日(日)に千葉市役所において、農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室及び千葉市防災対策課から講師をお招きして「子ども達を踏まえた防災対策」をテーマに、相談員29人出席のもと課題研修会を開催しました。

一口に防災と言うと、食糧だったり物品だったり「一般的」に何を準備しておけば良いのか言うことに終始してしまいがちですが、準備をする場合でも「私はほっとする甘い物を食べたい」や「この子には気を紛らわせるおもちゃが必要」など、自分目線で備えることが大事なのだと感じました。今後も防災について考える機会をもちたいと思います。



### 編集後記

第21期2年目である令和5年度が終わります。新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に見直され、世の中の考え方も大きく変わった1年でした。

学区イベントの一部は、要員やスキルの不足で縮小や方法を変更しての実施が数件ありましたが、相談員は今後も「継続は力なり」と「サステナブル」な活動で笑顔を繋いでいきましょう。(広報調査部)

# ちば 相談員の情報ページ No.131 (令和6年3月発行)

## 青少年相談員だより

発行：千葉市青少年相談員連絡協議会 責任者：東野 広志 編集：広報調査部



## 千葉市青少年のつどい大会

2月17日(土)に、相談員66人協力のもと「千葉市青少年のつどい大会」が盛大に開催されました。昨年度は真砂コミュニティセンター体育館で開催しましたが、昨年に引き続き応募多数であったことを受けて、より広い稲毛海浜公園屋内スポーツ施設で開催会場を移動しての開催となりました。

本大会は、平成31年度までプロスポーツチームの協力のもと、本場のスポーツとふれあう企画として開催してきましたが、身体的なハンディを抱える子どもも、お友達と一緒に頑張って積極的に参加できるイベントを事業部のメンバーで検討し、昨年度から「クイズ王決定戦!」として開催する運びになりました。

当日は小学1年生から中学3年生まで、144人の参加者が同年代のお友達と楽しそうに3択クイズに取り組みました。

また、昨年度に引き続き、車椅子で大会に参戦してくれた参加者もいました。

今年は新たに、リフティングが上手な相談員を当てる問題、入口にこっそり掲示してあったイラストを当てる問題、相談員の演技に騙されずに3本のペットボトルのうち水入りの1本を推理する問題など、知識だけではなく趣向を凝らしたスペシャル問題も出題! みんなでわいわい盛り上がりしました。

学年別ブース後は、いよいよ決勝戦です!

惜しくも決勝進出を逃した参加者も「優勝予想戦」に参加することで、決勝戦の最中も最後まで「見学者」ではなく「挑戦者」として大会に臨むことができました。決勝戦に出場した子ども達は「知識・観察力・体感・推理力」に長けており、みんな正解の学年が多く、最終的な優勝者はM r.クエ



スチョンとのじゃんけんで決定することになって、さらに「運」も必要となる勝負になりました。

来年度はM r.クエスチョンがより難しく楽しい謎を引き下げて大会に舞戻ってくると思いますので、乞うご期待ください!

優勝者と準優勝者に贈呈された大会スペシャル仕様 (非売品です!) のチーバくんは、子ども達から大人気! 会場のあちこちから「いいなあ」「ほしいなあ」の声が聞こえてきました。

参加者にはリピーターも多く見受けられましたので、次年度はさらなるブラッシュアップをして、より楽しいイベントとして開催したいと思います!





# 学区活動紹介



令和4年度  
の事例だよ



## 稲 稲毛中学区



稲毛中学区では、11月27日（日）に小中台南小学校体育館において、育成委員会レクリエーション部との共催事業として、「ライフキネティック講座」を開催しました。参加者は学区の子ども達25人とその保護者です。

「ライフキネティックって何？」と疑問に思う方もいることでしょう。そもそも、ライフキネティックという言葉自体、聞いたことがない方も多くいらっしゃると思います。簡単に言うと、誰でもできる簡単な動きを通じて、身体機能だけでなく脳機能も活発にする運動プログラムのことです。

子どもの場合は学習能力や創作力、集中力、記憶力、活発性といった能力向上が期待できます。高齢者の方からも好評で、認知機能低下予防など、介護予防に大きな効果を発揮すると考えられています。

子ども達も簡単な動作から始めて、失敗しても楽しくやれば良いと言う指導者からの声かけによって、みんな笑顔でいきいきとライフキネティックに取り組んでいました。

学区活動自体が久しぶりの開催でしたので、今までとは違う事業にチャレンジしてみましたが、初対面の子ども達同士もみんなでライフキネティックに取り組むうちに、段々仲良くなっていくのが目に見えてわかりました。新しい取り組みであったこともあって不安もありましたが、笑顔が絶えない空間に、開催して良かったと感じました。



## 緑 有吉中学区

有吉中学区では、コロナ禍前は毎年ヘルスメイトさんを講師にお呼びして、育成委員会が主催で「親子でクッキング」という食育事業を行っていました。しかし、感染症対策のため大勢が集うことや食事することに自粛を求められ、そのような状況の中でも何か子ども達のために活動できないかと考え、同様に新たな活動に思い悩んでいた相談員が連携し、共催事業を行うことになりました。「おにぎりグランプリ」は、どの家庭でも、どのような年代の子どもでも参加できる「おにぎり」をテーマにした「家庭でできる」事業です。

参加者には、おにぎりグランプリに参加するために発生した材料費の代わりに、おにぎりを作るためのお米や海苔などを賞品とするほか、それぞれに賞状も渡しています。

募集期間は秋休みを含んだ3週間です。審査は、おにぎりのタイトル・レシピ・写真（絵）・感想などの情報をもとに育成委員、相談員、ヘルスメイトが行いました。応募がしやすいよう、応募用紙だけではなく、Googleフォームも使用し、WEBでも応募できるようにしました。

全部で54組（小学生47組・中学生2組・大人5組）の応募があり、保護者や先生、給食の栄養士さんの参加もありました。

小学1年生の子が初めて握った塩結び、自分で収穫した米とサツマイモを使ったメニュー、頑張っている兄弟へのお弁当として、単身赴任のお父さんへなど、作り手の思いは様々で、誰が一番なんてつけられないね、と審査はとても難しかったです。



令和5年8月20日（日）に「千葉県青少年相談員60周年記念大会」が、青葉の森公園芸術文化ホールで開催されました。

千葉県知事も出席した当記念大会には、県内総勢370人も青少年相談員が一堂に会したほか、表彰式や千葉敬愛高等学校ダンス部によるパフォーマンス、講演会等が行われました。

また、子ども達が自分の抱えている夢や願いを込めて折り、青少年相談員が心を込めて糸を通して繋ぎ合わせながら準備をした折り鶴は、当日会場に15万羽もの数が運び込まれ、大会において華々しく披露されました。舞台上に吊るされた色とりどりの折り鶴の大群はまさに圧巻の一言です。

披露された折り鶴の一部は、大会後に羽田空港を含め、実際に折り鶴を作った子ども達の生活圏にあるイオンなど、県内各所を巡回して展示されました。

千葉市では市立小学校の3年生から6年生の子ども達に作成協力を依頼した結果、実に約8,000羽もの折り鶴が集まりました。小さいものや大きいもの、花柄やカラフルなものなど、折った子ども達の気持ちや個性によってそれぞれに異なった姿かたちをした折り鶴は、一つとして同じものはありませんでした。子ども達の個性を感じながら、折り鶴をひとつつなぎ合わせていく作業は、感慨深く、とても有意義な時間を感じました。

形や大きさの異なる折り鶴が集まった1本の折り鶴の束は、一見するとバラバラでまとまりがないように感じましたが、それが何百本、何千本と集まると、まるで大きな生き物のように美しい万羽鶴となりました。この事業を通して、個人個人では小さくとも、団結してまとまれば、こんなにも力強く雄大な存在になるのだと改めて教えてもらった気がします。

結びに、この場を借りて、千葉県青少年相談員連絡協議会の60周年記念事業にご協力いただいた児童、そしてお力添えいただいた学校の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



千葉県青少年相談員連絡協議会が60周年を迎えました

